

## 芸術工学府

I	教育の水準	.....	教育 27-2
II	質の向上度	.....	教育 27-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 27 年度の専任教員のうち、デザインの実務経験を有する教員の割合は 40%、女性教員の割合は 15.3%、外国人教員の割合は 3.5%となっている。
- 教員の教育研究力向上のため、平成 26 年度に「国際交流型デザイン教育の試行と発信」として、アジア各国との授業連携による学生の国際プレゼンテーション体験等の取組により、デザイン教育の国際化を図っている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学位授与方針として、学位プログラムごとに人材育成目標、教育目的と具体的な到達目標を定めており、学位プログラムが全体として芸術工学分野の基準を示すものとなっている。また、学位論文の評価基準として、厳格な手順を内規として整備しており、特に作品や芸術表現等の評価を明確化し、芸術表現・デザインの実践に基づく研究の評価を行っている。
- 国際通用性のある教育課程の編成及び実施上の工夫として、平成 26 年度に English Community Space（ECS）を設置し、留学支援や留学生との交流、英会話レッスン等を定期的実施しているほか、博士後期課程にすべての授業や研究指導を英語で行うコースを設置している。

以上の状況等及び芸術工学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 24 年度から平成 26 年度における学生の論文発表件数は、年度平均 104 件となっており、国際学会での発表数は、年度平均 43.3 件となっている。

- 学生の受賞件数は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の合計123件から第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の合計184件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における修士課程の就職率は、94.6%となっており、就職先はデザインに関連する業種を中心に広範囲にわたっている。また、博士後期課程の就職率は、86.3%となっており、大学や研究機関等の教員、研究者等として就職している。
- 平成27年度に実施した修了生へのアンケートでは、「未知の問題に取り組む姿勢」、「自分の専門分野に対する深い知識や関心」、「新たなアイデアや解決策を見つけ出す能力」の項目に対する肯定的な回答は、90%程度となっており、「専門教育の有用性について」の項目に対する肯定的な回答は、82%となっている。

以上の状況等及び芸術工学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度の専任教員のうち、デザインの実務経験を有する教員の割合は 40%となっている。また、女性教員及び外国人教員の割合について平成 22 年度と平成 27 年度を比較すると、女性教員は、修士課程では 6.5%から 15.3%、博士後期課程では 4.8%から 12.7%となっており、外国人教員は、修士課程では 3.2%から 3.5%、博士後期課程では 3.6%から 3.8%となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における修士課程の標準修業年限内の修了率は 80.8%から 85.5%の間を推移している。
- 平成 22 年度から平成 26 年度における就職率は、94.6%となっており、デザインに関連する業種を中心に広範囲にわたって就職している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。